

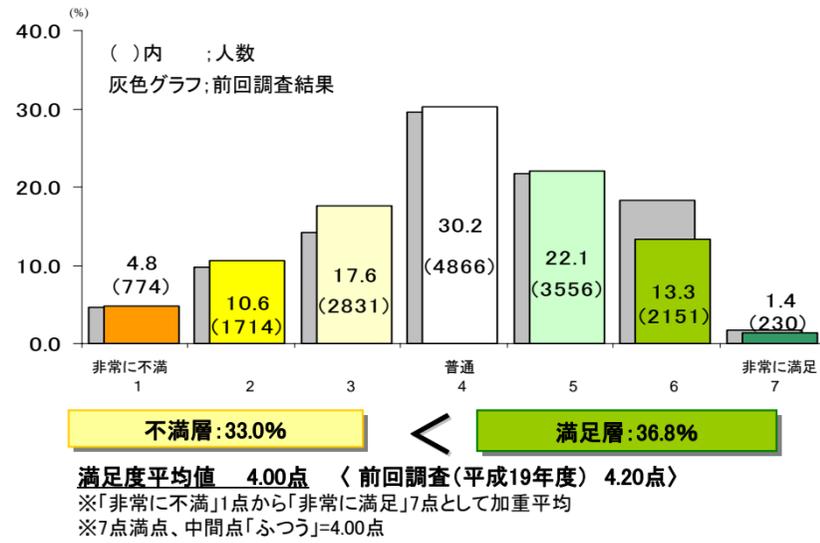
平成20年度横浜市職員満足度調査 集計結果

【調査概要】 ●調査期間：平成20年10月14日～10月27日
 ●調査対象：嘱託員・再任用職員を含む全職員(22,412名)
 ※企業局(水道局・交通局・病院経営局)職員及び市立小中学校、高校の教職員を除く
 ●回答率：83% 回答者数(18,596名)

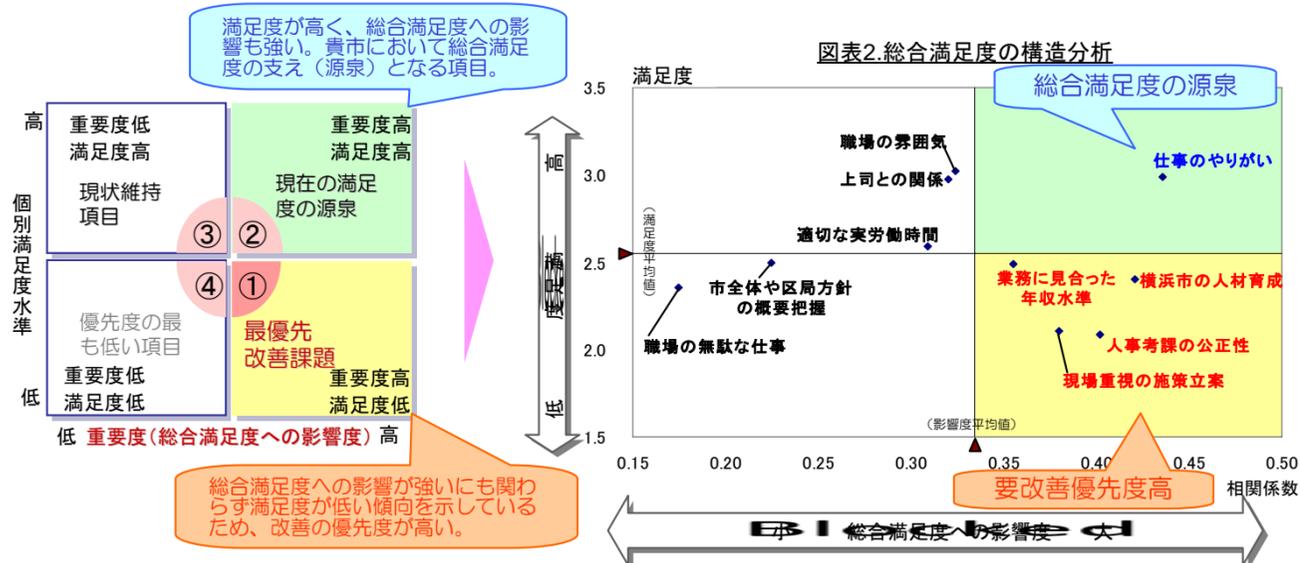
【総合満足度の傾向】
 ※総合満足度は7点満点中4.00点と、中間点の4点と同一点となっている(図表1)。
 前回調査(平成19年度)の4.20点と比較し、0.20点のマイナスとなっている。
 満足層と不満層を比較すると、満足層は36.8%であり、33.0%の不満層を若干上回る。

図表1.総合満足度(%)

Q1. あなたは総合的に考えて、現在の仕事・職場・横浜市役所に、どの程度満足していますか。



【総合満足度の構造分析結果】
 ※個別満足度の代表10指標の満足度水準と総合満足度への影響度より、総合満足度の満足度構造を分析。
 ・「影響度高・満足度低」の最優先改善課題に分類された個別満足度は、「横浜市の人材育成」「人事考課の公正性」「業務に見合った年収水準」「現場重視の施策立案」の4指標。特に「業務に見合った年収水準」以外の項目の影響度が高い。
 上記については、総合満足度を高めるため、重点的に改善していく必要がある。
 ・「影響度高・満足度高」の現在の総合満足度の支え(源泉)となっている個別満足度は「仕事のやりがい」。
 上記については、総合満足度の水準を保つため、満足度水準を現状維持していく必要がある。



【個別満足度の傾向】
 ・項目の分類別に見ると、「仕事」「職場」はスコアが高い項目が多い。
 ・一方で、「人事・給与」はスコアが低い項目が目立つ。
 ・特に、「人事考課の評価基準」「人事給与制度による意欲向上」のスコアが1点台と低い。

図表3.個別満足度一覧

